

2025年8月24日（日）

老球の細道 883号

愛があれば年の差なんて、スポーツも年の差なんて

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

8月5日に始まった高校野球甲子園大会が23日（土）終了した。戦後80年にふさわしいかどうか分からないが沖縄尚学が初優勝した。優勝候補が次々と敗れ、守備の沖縄代表が優勝し、改めてスポーツの勝負はどこが勝つか分からないことを知らしめてくれた。

毎年思うことであるが、この猛暑の中、高校の全国大会が18日間に渡って行われるということはどうなのだろうか。どのチームも大会開催数日前から甲子園に入っているのに、大会役員、決勝まで残ったチームは3週間近く甲子園に滞在することになる。以前も書いているが、甲子園1会場開催の弊害だろう。女子高校野球の全国大会は決勝のみが甲子園である。バスケットボールがこのような期間を使って開催したら各県の校長会から大ひんしゅくを買うことだろう。甲子園は特別なのか？同じ高校生のスポーツなのに。

この特別な甲子園大会の場で今年は前代未聞の出場辞退が起こった。107回大会の歴史で初めてである。広島県広陵高校の野球部の寮で上級生が規則違反のカップラーメンを食べた下級生に暴力を加えたことが問題になり出場を辞退したという。全国大会常連の強豪高校でもこんなくだらないことで上級生が下級生に制裁を加えるのだろうか。バスケットの場合は強豪高校が日清食品のカップラーメンをたくさんいただいているので、上級生も下級生もこれをたくさん食べているから、このような問題は起こらないだろう。

今年は終戦後80年ということで太平洋戦争時代の旧日本軍隊の理不尽な上下関係のいじめや暴力がテレビドキュメンタリーや新聞などで報道された。軍隊は階級差で上下関係が生じていたが、戦後の大学運動部などにその上下関係の気風が継承され、ある大学運動部では「4年生神様、3年生天皇、2年生平民、1年生奴隷」などと言われ、上級生の下級生に対するいじめ、暴力的指導が公然と行われていたのをよく聞いていた。企業も「体育会系」を積極的に採用していた。上司の言うことを文句も言わず「イエッサー！」だからである。

私は中学、高校、大学と、先輩や指導者による暴力的指導や理不尽ないじめ指導を運よく受けなくて過ごして来た。先輩には必ず人格的に優れて、バスケットも勉強もできる人がいた。そのような人たちは例外なく自分に厳しく、他人にやさしい。そもそも当時は先輩ずらして横柄な態度をとる人は誰からも相手にされなかった。

社会に出ると1歳、2歳の年の差なんて問題にされない。評価されるのは人間性と仕事に対する実力、情熱、誠実さなどである。スポーツも同じである。1年生だろうが3年生だろうが、3ポイントシュートを決めたら3点しか入らない。3年生だから4点はない。ファールをしたら学年関係なく1回記録される。1年生だから0・5回などありえない。

スポーツは勝ち負けだけではなく、よりよい人間性の育成も大切な目的、目標である。上級生は下級生の鏡である。中学、高校の部活動では顧問がちょっと目を離していると、悪しき上下関係の風習が目覚めることがあるので常に注意していなければならない。